



## 平成26年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成26年1月31日

上場会社名 セブン工業株式会社

上場取引所 東 名

コード番号 7896 URL <http://www.seven-gr.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 永吉 喜昭

問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長 (氏名) 田中 太郎

TEL 0574-28-7800

四半期報告書提出予定日 平成26年2月12日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成26年3月期第3四半期の業績(平成25年4月1日～平成25年12月31日)

#### (1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第3四半期	9,508	10.6	208	55.3	172	74.1	150	67.3
25年3月期第3四半期	8,598	△2.0	134	△1.5	98	△6.1	90	48.2

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第3四半期	10.12	—
25年3月期第3四半期	6.05	—

#### (2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第3四半期	12,442		5,266			42.3
25年3月期	11,228		5,115			45.6

(参考)自己資本 26年3月期第3四半期 5,266百万円 25年3月期 5,115百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
26年3月期	—	0.00	—	—	—
26年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成26年3月期の業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	12,400	6.1	400	42.7	350	50.3	300	39.8	20.12

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

26年3月期3Q	15,577,500 株	25年3月期	15,577,500 株
26年3月期3Q	668,237 株	25年3月期	667,397 株
26年3月期3Q	14,909,637 株	25年3月期3Q	14,911,521 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表に対する四半期レビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料2ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	2
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項 .....	2
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	2
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	2
3. 四半期財務諸表 .....	3
(1) 四半期貸借対照表 .....	3
(2) 四半期損益計算書 .....	5
第3四半期累計期間 .....	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項 .....	6
(継続企業の前提に関する注記) .....	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	6

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、政府主導による経済対策や日銀の金融政策などを背景に、輸出企業を中心とした企業業績の改善や株価の上昇など景気回復の兆しが見られたものの、海外景気の下振れリスクや円安の影響による輸入価格上昇、所得環境の改善の遅れなど懸念材料もあり、引き続き不透明な状況にあります。

住宅関連業界におきましては、景気回復基調に伴う消費マインドの改善や消費増税に備えた駆け込み需要を背景に新設住宅着工戸数は堅調な状況が続いております。

こうした事業環境のなか、当社においては「躍進の年」をスローガンに、かねてから布石を投じた諸施策を強固に推し進め、安定した収益を確保する生産体制の確立や事業拡大に資する提案営業に努めております。

化粧建材事業につきましては、同事業部門の新たな基軸として位置付けているシート階段について、新規顧客開拓や既存顧客に対する営業強化、生産体制の構築に努め、第3四半期に入り本格的な事業運営を開始いたしました。受注は好調を維持しているとともに生産ラインの稼働率も向上しております。そのほか、季節的な要因もあり和風造作材や框につきましても受注が増加するなど業績の改善が図られてきております。

積層建材事業につきましては、積層階段、カウンターの受注が引き続き好調を維持しており堅調な事業運営となりました。当期から進めている積層階段と化粧階段の一体化による生産体制の構築は合理化、効率化に寄与しており、また、新商品である省施工階段において積極的な営業活動を展開するとともに生産・受注システムの開発に着手し、早期の本格稼働を目指すなど階段事業の一層の基盤強化に努めました。カウンターについては、徹底した技術指導のもと東南アジアの資材サプライヤーにおける塗装工程の展開を軌道に乗せるなど資材コストの低減と合わせ海外における品質強化に取り組んでまいりました。

木構造建材事業については、プレカット、ツーバイフォーパネルを中心に販売は好調を維持いたしました。特にツーバイフォーパネルにおいては、一連の設備投資が完了し、増産、拡販に向けた体制のもと徹底した生産性向上に努め、運送効率、輸送コストの低減など収益性改善に資する課題に着実に取り組んだことが奏功し、安定した事業運営の道筋が見え始めました。また、受注拡大に向けた営業力を強化するなど同事業部門における新たな中核事業としての確立を図っております。設計積算業務においては、コスト削減と経営資源の補完を目的にベトナムの資材サプライヤーと提携しCAD業務のアウトソーシング化に向けた取り組みに着手いたしました。当該業務は業務効率を高めるうえで常にボトルネックになる工程でもあり、早期に現地技術者の育成に努め、更なる業容の拡大に向けた対策を図っております。

上記のとおり、総じて受注は好調を維持しており、また合理化、効率化による収益の改善が進んでおります。しかし一方、資材の大半を輸入している現状において大幅な円安を背景とした為替の影響により、資材価格の高騰が収益を圧迫する要因となり、期待通りの利益を確保するには至らない内容となりました。

これらの結果、当第3四半期累計期間の売上高は95億8百万円と前年同四半期と比較し、9億9百万円(10.6%)の増収となりました。利益面では営業利益2億8百万円と前年同四半期と比較し74百万円(55.3%)の増益、経常利益は1億72百万円と前年同四半期と比較し73百万円(74.1%)の増益、四半期純利益は1億50百万円と前年同四半期と比較し60百万円(67.3%)の増益となりました。

### (2) 財政状態に関する説明

当第3四半期会計期間末における総資産につきましては、124億42百万円となり、前事業年度末と比べ12億13百万円増加となりました。これは主に受取手形及び売掛金並びにたな卸資産等の増加によるものであります。

負債については、71億76百万円となり、前事業年度末と比べ10億62百万円増加となりました。これは主に支払手形及び買掛金、短期借入金並びに長期借入金等の増加によるものであります。

純資産については、52億66百万円となり、前事業年度末と比べ1億50百万円増加しております。これは主に四半期純利益の計上によるものであります。

この結果、総資産の増加等により、自己資本比率は前事業年度末と比べ3.3ポイント減少の42.3%となりました。

### (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成26年3月期通期の業績予想につきましては、平成25年4月30日に公表いたしました予想から変更はありません。

## 2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

### (1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

### (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期財務諸表  
 (1) 四半期貸借対照表

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成25年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	778	748
受取手形及び売掛金	3,876	4,838
商品及び製品	204	235
仕掛品	300	444
原材料及び貯蔵品	746	1,032
その他	128	177
貸倒引当金	△5	△6
流動資産合計	6,028	7,470
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	1,082	1,043
土地	2,917	2,917
その他（純額）	865	777
有形固定資産合計	4,866	4,738
無形固定資産	152	129
投資その他の資産		
その他	225	148
貸倒引当金	△44	△44
投資その他の資産合計	181	104
固定資産合計	5,200	4,972
資産合計	11,228	12,442

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成25年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,533	3,199
短期借入金	800	1,030
1年内返済予定の長期借入金	611	635
未払法人税等	28	9
賞与引当金	—	25
その他	417	459
流動負債合計	4,389	5,358
固定負債		
長期借入金	1,481	1,639
退職給付引当金	134	121
役員退職慰労引当金	84	38
資産除去債務	2	2
その他	21	16
固定負債合計	1,723	1,818
負債合計	6,113	7,176
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,473	2,473
資本剰余金	2,675	2,675
利益剰余金	206	357
自己株式	△240	△240
株主資本合計	5,115	5,265
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	0	0
評価・換算差額等合計	0	0
純資産合計	5,115	5,266
負債純資産合計	11,228	12,442

(2) 四半期損益計算書  
(第3四半期累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
売上高	8,598	9,508
売上原価	7,450	8,224
売上総利益	1,147	1,284
販売費及び一般管理費	1,013	1,075
営業利益	134	208
営業外収益		
受取配当金	0	0
受取手数料	3	2
雇用調整助成金	1	—
その他の雇用関連収入	3	1
その他	2	1
営業外収益合計	10	5
営業外費用		
支払利息	28	27
売上割引	14	14
その他	2	0
営業外費用合計	46	42
経常利益	98	172
特別利益		
固定資産売却益	0	0
特別利益合計	0	0
特別損失		
固定資産廃棄損	1	2
保険解約損	—	7
その他	0	—
特別損失合計	1	10
税引前四半期純利益	98	162
法人税、住民税及び事業税	7	11
法人税等調整額	△0	△0
法人税等合計	7	11
四半期純利益	90	150

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。